

アナ	皆さま、こんにちは。「長寿医療ひとくちメモ」のお時間です。 今日は医療費について、長寿医療制度を運営しております栃木県後期高齢者医療広域連合の〇〇さんに伺いたいと思います。〇〇さん、よろしくお願いします。
〇〇	はい、よろしくお願いします。
アナ	早速ですが〇〇さん、月曜日の放送で栃木県のこの制度加入者の総医療費が20年度は大体1425億円で、被保険者一人当たりの医療費は大体68万円と伺いましたが、この医療費の総額というのは、今後どうなっていくのでしょうか。
〇〇	はい。日本においては、医療費の金額というのは、今後ますます膨らんでいくことが見込まれています。平成18年度の国民医療費はおおよそ33兆1千億円強でしたが、19年度は34兆1千億円強となり、1兆円以上も増加しています。
アナ	一年間で1兆円以上も増えているんですね。年々増加していく、その理由としては、どのような事があるのでしょうか。
〇〇	様々な要因が考えられます。医療技術が高度化したことや、日本の高齢化が進んでいることが挙げられると思います。もし仮に被保険者一人当たりの医療費が毎年変わらなかったとしても、受診率の高い高齢者人口は、どんどん増えていくわけですから、総額は増えていきますよね。
アナ	やっぱり高齢になれば病院に行く回数も増えるでしょうから、その分医療費も増えるということになりますよね。
〇〇	そうですね。現在、この制度の被保険者の窓口負担は原則1割、現役並み所得のある方は3割となっています。窓口負担の残りの部分は、その5割を国や県、市町村の公費で、4割を現役世代からの支援金、残りの1割を、この制度の被保険者の方からの保険料で賄っています。医療費の総額が増えれば、それぞれの負担も大きくなってしまいます。ですから、医療費の増加を抑えるということは、社会全体にとっても、大切なことなんです。
アナ	この負担を少なくするためには、私たちはどういったことを心がけていけば良いですか。
〇〇	そうですね。例えば、今、インフルエンザが流行っていますが、うがいや手洗いなど、自分で出来る予防を心がけて病気にならないことも、医療費の増加を抑える有効な方法の一つだと思います。
アナ	他には、どんなことが考えられますか。
〇〇	同じ病気でいくつもの医療機関にかかる、こういった受診をしないということも必要です。特に、複数の医療機関を受診した場合には、処方された薬を重複して服用することもあるかもしれませんよね。ただ、薬は飲み合わせによっては、逆に健康を損ねてしまうこともあるんです。ですから、普段から、自分の身体をよく理解してくれている、かかりつけのお医者さんを見つけておくことが大事なんです。
アナ	なるほど。まず予防、そして病気にかかった場合には、適切な治療を受けることが、結果的に医療費の増加を抑える手だてとなるということですね。 ありがとうございました。この番組についてのお問い合わせは、 栃木県後期高齢者医療広域連合 電話028-627-6805までお願いいたします。〇〇さん、今日はありがとうございました。
〇〇	ありがとうございました。